

令和3年度 強化方針

○はじめに

現在の「競技者育成プログラム」は、平成28年岩手国体選手強化に向け、県体協の指導により平成22年2月に作成されたものである。以降、この考え方にに基づき長年強化の具体的施策、強化事業等を実施してきたものである。

この競技者育成プログラム作成に至った経緯は、平成19・20年頃の東北ミニ国体での2年連続総合最下位という屈辱である。この低迷を打開するためにひとつの対策としてオープンリーグを開催した。とにかく何かを始めなければとの思いである。

その後は、県協会全体が一丸となったことや、強化に係わる関係者の方々の努力により東北ミニ国体総合優勝するまでになった。しかし、国民体育大会においてはベスト8が最高成績であり、本当の意味の強化の面ではまだまだと言わざるを得ない。

したがって、今後においてもこの「競技者育成プログラム」を強化の指針として抛りどころにするものである。

I. 基本的考え方

1. 卓球競技強化の基本的考え方は、本県の小学、中学、高校、大学に在学および本県出身選手（ふるさと選手）を対象とした育成、強化を推進する。
2. 目標は各カテゴリーすべて全日本大会上位を目指すことはもちろんであるが、特に重点的に強化する種目はホープス、カブ、バンビとする。
3. 競技環境からの視点で考えるとまだまだ競技人口が薄い（少ない）と言わざるを得ないことから卓球人口拡大、普及に取り組むものである。
4. 本会を代表し全日本大会等に出場選手および県選抜選手は、岩手代表と言う自覚を持つことはもちろん、チーム岩手の考え方を浸透させる。

II. 具体的取組み

1. 小・中学生の強化は平成19年10月から実施してきたオープンリーグを引続き開催し、講話、講習会、試合を通して選手、指導者の意識改革を促す。
2. 小学生強化は全体の選手層、人数の底上げが不足しているため普及活動にも取り組むが、特にバンビ（小学2年以下）の選手の普及、強化に取り組む。
3. 中体連、高体連に所属する選手は、それぞれの母体チームでの強化となることから県代表選手、県選抜選手中心の強化策とし、強化合宿等実施する。
4. 将来の国体候補選手を見据えた「県小・中学生強化指定選手制度」を導入し、明確に選手を指定した強化の取組みを行う。

III. 強化事業

1. 国民体育大会選手選考会（成年・少年）
2. ミニ国体直前強化合宿（成年・少年）
3. 小・中学生オープンリーグ

4. 東北・北海道小学生選抜強化合宿
5. 東北中学生選抜強化交流会
6. 東北卓連強化合宿
7. 小・中学生合同強化リーグ

IV. 国体監督

- ・少年男子 野田春輔（常任委員）
- ・少年女子 三浦邦広（常任委員）
- ・成年男子 高橋謙太（常任委員）
- ・成年女子 大川貴士（常任委員）

V. 組 織

1. 強化部は、その時々選手強化の考え方や方向性、施策等を作成し理事会に提案することとする。また、強化に関する予算案についても立案、提案する。
2. 強化・育成委員会は、強化事業である強化合宿等やオープンリーグの運営および強化スタッフとして活動する。

○ 強化部

部 長	小 野 豊（会長）
副 部 長	柏 山 徹 郎（副会長）
〃	新 沼 興 隆（ 〃 ）
〃	小 坂 信 彦（ 〃 ）
委 員 長	高 橋 和 博（理事長）
事務局長	高 橋 栄 喜（副理事長）
委 員	細 川 健 治（高体連委員長）
〃	野 田 春 輔（高体連、国体監督）
〃	久 保 雄 章（カデット委員長）
〃	山 田 保（ホープス委員長）

○ 強化・育成委員会

委 員 長	高 橋 和 博
事務局長	高 橋 栄 喜
委 員	新 沼 大 隆（中体連委員長）
〃	大 川 貴 士（高体連、国体監督）
〃	三 浦 邦 広（ 〃 、 〃 ）
〃	高 橋 謙 太（ホープス事務局長、国体監督）
〃	平 船 文
〃	野 田 享 平
〃	柏 山 潤
〃	伊 東 伸 也（社会人委員会）